



平成25年3月4日

卓話 『やまとぢから』

東京藝術大学大学院文化財保存修復学教授（保存修復彫刻）

彫刻家 藪内 佐斗司 様

こんにちは、藪内佐斗司です。

普通、大和の国というと奈良県を申しますが、大和魂という言葉があるように日本という意味です。大和の「と」は「戸」、「やまと」は山の入り口という意味で、当時の中心部は山の中です。そこへ行くための入り口として大和があると私は考えています。

九州の志賀島で発掘された金印には「漢の委わの奴なの国王」とあります（注：委は倭の略字）。日本人はずっとこう読むものと教育されてきました。ところがある知り合いの中国の方にお見せしたら、これは「漢の倭奴の国王」だと言うんです。中国の北から西の方にいたトルコ系の民族を「匈奴きょうど」と読むのに、なぜ「倭奴」と読まないのかと中国の方はおっしゃる。なるほどと思いました。中国の華夷秩序では真ん中に中国があり、北は「狄」、西は「胡」、南は「蛮」、東は「夷」です。その夷の方に住んでいる我々のことを中国の史書では「倭」とよんだ。女みたいにちっぽけな奴という意味です。この字、最初、日本人はいい字を貰ったと喜んでたんですね。だけど朝鮮半島から来た百済の人が、これは蔑称ですよと教えてくれた。で、我々のご先祖はこの字をやめて同じ発音の和という字を使うようになりました。そして自分のところの王朝は唐にも負けない立派な王朝なんだぞということで上に大を付け、大和という名前になりました。おそらくこういう事情で日本の国号は決まったんだろうと思います。

日本という国号を最初に用いたのは聖徳太子かなと思いますが、日本は中国から見て太陽が昇る東の方だから、日いずるところの国というこ

とで日の本。これは7世紀にはもう完全に国号として使っていたようです。大和王権は九州の方から出てくるわけですが、ずっとお日さまを追っかけて来ます。そして日本の統一を始めるわけですね。よく見ると日本の地名には日というのがものすごく重要な意味を持っています。

日本人はどこから来たのか。朝鮮半島から来たとも考えられますが、百済が滅びる前に揚子江の方から大量に人が来ているということが考えられます。中国には黄河と長江（揚子江）に二つの大きな文明圏があって、百済や日本は長江文明圏であったということが徐々に考古学的にも証明されています。長江文明圏の特徴は木を使う。漆を使う。日本の着物は呉服といって風が入りやすく涼しくなっていますね。呉は三国時代の国で長江の流域にありました。このように日本の文化は単純に朝鮮半島から来たとか唐から教わったのではなく、それ以前にすでにこういう形であった。それに黒潮に乗ってきたポリネシアの文明もあります。ですから日本人は非常に複雑な源を持った人たちだと思います。我々にはそういういろんなアジアの血が混ざり、その集積として大和がある。それを自覚してこれからの日本を築いて行こうと思い、私は「やまとぢから」という名前を付けました。「やまとぢから」は私の造語です。

ありがとうございました。

